※この報告記は、二二会会員に向けてグループメール配信したものを、一部修正して掲載しました　たことをご承知おきください。
※写真に関しては、主ページ掲載の＜写　真＞もご参照ください。

去る 6 月 2 日(土)飯田市錦町　シルクホテルにて飯田高校同窓会定期総会が開催されました。我々高 22 回卒生が今回の当番幹事ということで、一昨年の実行委員会の発足、昨年の名古屋開催総会の参加など準備段階から当日の運営まで関わってきました。
二二会員の当日の出席者は、総会 110 名　総会懇親会 103 名　二二会懇親会 100 名でした。総会出席者全体の内、半数が二二会員でした。正に、”数は力なり”でその存在感を多いにアピールできたのではないでしょうか？

【開会行事、総会】
まず、昨年より市岡登君が本会の事務局長に就任しており、本総会も実質市岡君を中心に企画運営・資料作成等々がなされ、二二会実行委員会としては、非常に頼りにし進めていくことができました。

1）開会行事

開会の辞に続いて、校歌斉唱　宮下博君が指揮担当ですが、斉唱の前に宮下君が校歌の由来を述べたあと、校歌斉唱をいたしました。
続いて、物故者追悼ということで、私、土屋が担当し、これまでにお亡くなりになった皆様方のご冥福をお祈りし黙祷を捧げました。

宮島会長挨拶・巻山校長挨拶に続いて、前沢元実行委員長の高 22 回当番幹事として、我々22 回生が本総会の運営を担当する旨の挨拶がなされました。

次に、市岡事務局長の進行によりご来賓の紹介・役員の紹介がされました。役員には、副会長に大田中峰雄君　財務委員長に長谷部和宣君　ユリノキ会会長に神崎あさ子さんが就任しておりそれぞれ紹介されました。

2）会議

議長に中村洋次朗君　長谷川敬子さんが選出され議事が進められていきました。
　第 1 号議案　平成 29 年度事業報告並びに会計報告
　第 2 号議案　平成 30 年度事業計画並びに予算案

いずれも会長の指名により市岡事務局長が説明し、それぞれ可決承認されました。

ここで、プチハプニング　質疑応答になんと原英之君がやおら立ち上がって質問。
「会費納入率が高 60 台生が 100%なのは何故か？」
　市岡事務局長が冷静に答弁 「実は、入学時に全生徒が数年分を前納している」とのことに全員納得。

【講演会】

1）講師紹介　ここからは、羽生紀和子さんが司会進行を努めます。アシスタントは白子和夫君

　講師　岩崎廣和君の紹介
　＜主ページの「講師プロフィール」参照＞

　司会の羽生さんから紹介がありました。耳に大変心地よい安定した語り口調で、流石元アナウンサーを思わせる素晴らしい司会ぶりでした。

2）講演
　さあいよいよ　岩崎君の登壇です。

演題は、「未来を切り拓く情熱～日本化学遺産に学ぶ～」

　冒頭　卒業アルバムの中のＦ組の部分が紹介されました。若かりし頃の大島明先生を中心に「やーい」と叫べども誰も呼応しない本庄宏行ルーム長の姿など大変懐かしい写真がありました。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」 ビスマルクの言葉を引用し、岩崎君の勤務した昭和電工の創業の精神が紹介されました。

　昭和電工は、言わずと知れたアルミの製造会社で　日本初のアルミの生産に成功した会社です。アルミは、軽い　強い　加工性　耐食性　美しい　伝導性　など様々な特長がありしかも、地球上の資源の1/12 約8%も存在しているとのこと。これは意外、鉄よりも多いそうです。製品として

は、ご存じ 1 円玉　缶ビールなどのアルミ缶　車の部品などがあり用途は多様です。

　ではなぜ鉄ほど大量生産ができないのかというとアルミと酸素の結びつきが強くアルミ単体で取り出すことが大変難しいとのこと。一方鉄は、酸素との結びつきは、あまり強くなく鉱石から鉄を取り出すのは、さほど難しいことではないとのこと。
　そんな中これほど有用なアルミを外国からの輸入に頼らず、国産でと立ち上がったのが、後の昭和電工社長の森氏である。国産では絶対にできないと言われていたアルミではあるが、それこそ不撓不屈の精神で取り組み原料の明礬石の調達を朝鮮から、電力の調達は大町の高瀬川からと行い、ついに昭和 9 年国産化に成功しました。

　その後は残念ながらオイルショックなどの経済変動の波にのまれ、国産アルミの製造原価は、原石 20 万円、電力コスト 20 万円　計 40 万円かかるものが、カナダでは、電力コストは 2 万円と 1/10 で調達できるため、到底太刀打ちできなくなっており平成 26 年に我が国のアルミ精錬事業は 80 年の歴史に幕を閉じたのでした。

　だがその”やってやろうじゃないか”の不撓不屈の精神は、日本化学遺産として残されています。またその精神で、医療の分野で挑戦し続けている方が、岩崎君が現在勤めるナノ医療イノベーションセンターCOINS の片岡一則センター長です。

　ナノ医療イノベーションセンターCOINS が目指す社会：スマートケアライフ社会いつでもどこでも誰もが社会的負荷の大きい疾患から解放され気づかぬうちに健康になる社会ということで、体内病院の実現を目指すということだそうです。治療費が 2･3 千万円も莫大にかかるような治療でなくて、いつでもどこでも誰でも受けられる治療を目指しているとのことで何とも心強いことです。

　人間の体は、すでに自力で治癒する力を持っておりその応用範囲を広げることだろうと思います。その一つにナノマシンによる治療法を研究開発しています。
例えば、健康な部位の血管壁は小さいのですが、がんに侵されている部位の血管壁は、増殖に必要な酸素や栄養分を取り込むため健康な部位の血管に比べて、大きくなっているそうです。つまり、血管の穴の大きさが違うので、そこに抗がん剤を運んでいるナノマシンが健康な部位の血管壁は素通りして、がんに侵されている部位の血管壁から入り込んでがんの患部に直接働きかけ治療していくとのことです。
しかも健康な部位は、素通りのため副作用もないという画期的な治療法です。
　このナノマシンの治療法は、がんばかりでなく脳神経や関節治療にも多くの範囲に応用できるそうで、実用化もすぐ目の前にあるそうで、大いに期待しましょう。

　岩崎君の講演は難しい内容を非常にわかりやすくかみ砕いてくれて、ついつい引き込まれて、しまいました。もっともっと時間があればなあという思いは、聴講者全員が持ったのではないでしょうか。
思わずスタンディングオベーションをしたくなるほどの大変素晴らしい講演でした。

そんな余韻の中、大田中副会長の閉会の辞の後、会場を「錦繍の間」に移し、飯田高校吹奏楽班の演奏　懇親会へと進んでいきました。

【アトラクション】

＜主ページの「プログラムなど」参照＞

演奏　飯田高校吹奏楽班の演奏

Program

☆.飯田高等学校校歌

1. ミュージカル「キャンディード」序曲（バーンスタイン）
2. ふるさと
3. 演歌メドレー

　　川の流れのように～ウィスキーがお好きでしょ～北酒場

アトラクション・懇親会場の「錦の間」に入ると、吹奏楽班の後輩の皆さんがにこやかな笑顔で、我々を迎え入れてくれました。とても初々しく約半世紀前の自分の姿がオーバーラップしてタイムスリップした感がありました。

演奏が始まると、とても素晴らしくさすがいくつもの大会で好成績を収めているだけあって、門外漢の私でもそのレベルの高さが感じられるほどでした。

それにただ単に演奏を披露するばかりでなくいろいろなパフォーマンスで楽しませてくれました。

中でも特におもしろかったのが、演歌メドレーです。班員たちが、”川の流れのように”では、ソロで歌い　”ウィスキーがお好きでしょ”では、バーのカウンターでウィスキーを飲み干す格好をしたり、（高校生なのに･･･）

その時突然　「先生は、学校でそんなことを教えとるのかぁ」とヤジが入りました。座が爆笑に包まれてそのやじり主を見ると　もうすでにべろんべろんになっていつの間にか闖入していた田中秀佳君でした。

”北酒場”では、お揃いのＴシャツを着た数名が並んで手拍子でリズムを取り、着流しの酔客が、酒をあおり、「やっぱり酒は喜久水に限る」と宮島会長にごまを摺っていたのがおもしろかったですね。

後輩の頼もしい姿に今後の活躍を期待したいと思います。

＜ご案内＞

飯田高校吹奏楽班定期演奏会

期日　６月17日　13:30～

飯田文化会館　大ホール

ぜひ足をお運びください。

【懇親会】

1）開会あいさつ
　　高松賞表彰 「虎岩の文化財を守る会」
2）来賓紹介

3）鏡開き・乾杯

　懇親会には、ニニ会員の懇親会出席者　103 名 （当日参加の田中秀佳君含む）。
何しろ半数以上がニニ会員のため、さながら単独の懇親会の様相をなしていました。
それぞれ、いろいろなところで、いろいろな人たちが交じりあい昔話に花を咲かせていました。

4）応援歌合唱 （高 22 回全員で）

　本会懇親会も次第にお開きが近くなってきました。いよいよ満を持してニニ会パフォーマンスの時間です。
舞台左手から原功君が飯田高校学生服、なぜか早稲田の角帽、白手袋という出で立ちで、しずしずと歩み寄り舞台右手にすっくと立ち止まり、そのまま微動だにせず、直立不動の姿勢をとり続けます。

続いて、滝茂樹君、牧野良君の両名が飯田高校校旗を携えて登場します。滝君は、学生服に白手袋姿、牧野君は、袴に朱色の襷がけ、額にはちまき、白手袋の応援団長姿です。二人は、ずっしりと重い巻いた校旗を横にして、旗竿を掴むのでなく両腕の上にのせて、ゆっくりと舞台右中央へ歩み寄ります。滝君が原君の立つ一歩前で立ち止まると、牧野君が突然巻いた旗の部分を跳ね上げました。すると校旗ははらりと広がり稲穂の校章が現れました。滝君はそのまま石突きを下に旗竿を斜にして同じく直立不動の姿勢で持ち続けます。上背のある滝君の雄姿です。

　ここから牧野君の口上が始まります。朗々とした大きな口調で。

″本日の同窓会は、飯田高校野球部　OB　が母校のユニフォームを着て「おやじたちの甲子園」に初挑戦する記念すべき日に開催されたぁ?　オヤジたちよ、現役野球部員とともに、飯田高校卒業生の悲願である甲子園出場に果敢に挑戦してほしい?”

→全員　”そうだぁ? ″

（ニニ会みんなの声が会場いっぱいに響き渡ります。）

　″今日の対松本工業戦には、40 有余年前に、長野商業と決勝で投げ合ったあの伝説の投手「左手一本で明治大学」の林賢志氏が登板しているはずであるぅ。飯田高校野球部　OB　チームの勝

利を祈って応援歌「友よ若木の」を声高らかにうたおうではないかぁ?”

→全員　そうだぁ? ″

”応援歌ぁ 「友よ若木のぅ」”

◆友よ若木の

一　友よ若木の血潮燃ゆる
　空は紺碧心晴れやか
　炎熱のもときたへ来し
　選手よ我ら高松の
　奮然と戦へ
　ああ感激のけふこの時

二　友よ若木の緑燃ゆる
　夕日映えて心晴れやか
　炎熱のもときたへ来し
　選手よ我ら高松の
　奮然と戦
　ああ感激のけふこの時

”ここで、新任の巻山校長先生にお願いしたいことがあるぅ? ”　→全員、なんだぁ?

”去年の花園では「もう死んでもいい」と思うくらいに涙がでたぁ? ”　→全員、そうだぁ?

”しかし、ひとつ残念だったことがあったぁ?”　→全員、なんだぁ?

”スタンドで応援歌を歌った時に、現役の学生が悲しそうな表情をしていたことであるぅ? ”

→全員、そうだぁ?

”現役学生に聞いてみると「僕たち応援歌を知りません」ということだったぁ? ”
”そしてけなげにも「僕たち応援歌を覚えたいです」といってくれたぁ? ”

→全員、そうだぁ?

”校長先生、もういいでしょう、環境は整いました。是非、学生たちに勉強はもちろんだが、応援歌もしっかりと教えてほしいぃ?　→全員　そうだぁ?

”応援歌ぁ 「勝利の曲ぅ」”

◆勝利の曲

一　坤神永久に地に潜み
　猛鷲翼をたゝむとき
　輝く夕日背に担ひ
　今や我らは勝てるなり

二　折伏降魔の太刀風に
　見よ往にし日の勁敵は
　剣収めて隠るるを
　今や我らは勝てるなり

三　橄欖の葉に映ゆる月
　若き勇姿を照らす時
　勝利の誇り歌ひつゝ
　今や我らは勝てるなり

”今日は、16 回卒斎藤淳先輩、20 回卒森本政人先輩お二人にこの応援団衣装をお借りしてきたぁ?”

→全員　そうだぁ?

”事務局からは、みんな早く帰りたいので応援歌２曲だけにしろと厳命されているがぁ これで終わっては、衣装をお借りした両先輩にもうしわけないぃ?”

→全員、そうだぁ?

”ここまでやって、校歌を歌わずに帰れるかぁ?”

→全員、そうだぁ?

”今年も花園で校歌を歌おうではないかぁ?”
”そして、いつの日か甲子園で校歌を歌おうではないかぁ?”

→全員　そうだぁ?

″それまで、ここにいる同窓生は誰ひとりかけることなく生きていようではないかぁ?”

→全員、そうだぁ?

”…無理か…。”
”飯田高校校歌ぁ 「赤石山は巍々としてぇ 一番　二番、四ばぁ-ん」
アイン　ツバイ　トライ　それ-ぇ”

◆飯田高等学校校歌

一　赤石山は巍々として
　我が南信の骨をなし
　天竜川は逶?として
　我が伊那郡の地を成せり
　千余の学徒怠らず

この大沢の唯中に
或は学び或は馳せ
龍蛇の意気を鍛へばや

二　春　今宮の桜花
心を花に修めつつ
夏　風越の青嵐
眼を文にさらしつつ
長姫城の秋の月
理想を高く掲げつつ
時　松川の冬の雪
清き操を養はん

四　ああ白雲の谷深く
都の塵も通ひ来ぬ
この山川のうちにこそ
誠の丈夫出づるなれ
操守は堅く意気猛く
世の風潮と戦ひて
理想は高く知慮深く
精華を揚げん　　美をなさん

会場全体に飯田高等学校校歌が割れんばかりに響き渡り、盛り上がりが最高潮に達しました。何人もの先輩諸氏が、目頭を押さえ中には涙ぐみながら呼応してくれていました。
そして興奮覚めやらぬ中、23 回生へと総会当番幹事引継ぎ式が行なわれました。

5）総会当番幹事引継ぎ式

二二会実行委員の皆さんが壇上に上がり、総会当番幹事引継ぎ式が行なわれました。
前沢会長より御礼の言葉が述べられた後、熊谷嘉隆 23 回生次期実行委員長に引き継ぎ書が手渡されました。

6）万歳

発声は最年長参加者の中 41 回生の長坂好忠様。 94 歳？になられるとのこと。声量も豊かで、なおもかくしゃくとしていらっしゃいました。昨年に引き続いてのご発声です。

7）閉会の辞

8）解散　二二会員は引き続き単独の懇親会へ

＜以下、ニニ会単独の懇親会です＞

冒頭、ニニ会全体の集合写真撮影。鶴川君が載せてくれていますので、そちらをご覧ください。皆さん、とてもいい表情をしています。壮観です。
あとはもう至るところで、談笑の渦、渦。時の経つのも忘れて。あっという間の 1 時間半でした。

お開き近くに元野球部主将の田辺一光君が原功君に付き添われて登壇。病身でありながら皆に会いたい一心で無理を承知で、参加してくれたとのこと。
田辺君　本当にありがとうございました。

また、今回初めて、あるいは、久しぶりに熊谷成人君、桜井正則君、栗沢照子さん、西江富士子さん、市沢みゆきさん、塩澤欽二君、徳永広志君、古田美津江さんらが顔を見せてくれて、ある意味大変新鮮でした。

最後は、円陣に肩を組みながらこの日 4 度目の校歌に酔いしれ、名残りを惜しみつつ、また 2 年後の卒後 50 周年記念会に再会を誓いながらお開きとなりました。
この雰囲気は、鶴川君が膨大な写真を載せてくれていますので、そちらで味わってください。食べるものも食べず、飲むものも飲まず、ただひたすらに撮り続けてくれていました。
鶴川君、本当にありがとうございました。

三次会の伝馬町スナック愛里には、実に 60 余名が集結し話の続きやらカラオケやらでひと時を過ごしました。辛うじて、日付の変わらないうちに解散したことをご報告しておきます。

結果として、100 名を超える 22 回生の参加者、岩崎君の講演、ニニ会のパフォーマンスなど充実したそして大盛り上がりの内容で、宮島会長はじめ同窓会役員の皆さん、諸先輩方に満足していただいており、22 回生としての責任は、十二分に果たせたと思っています。
そして、当番幹事の名を借りて、チャッカリニニ会の同年会を本会懇親会から、やっちゃった感もあり、ある意味、逆に感謝しなければいけないのかな？と思っています。
ニニ会の皆さんには、個人的なご都合があるにもかかわらず、曲げてご出席いただいた方も多くいらっしゃいました。実行委員会の皆さんには、裏方として、事前準備から当日までいろいろお骨折りいただきました。
本当に、本当にありがとうございました。

次回は2年後です。
今回、多くの方から〝〇〇組の〇〇さんは、出席しますか？”という問い合わせをいただきました。これは、自分が〇〇さんに会いたいばかりでなく、多くの皆さんも自分に会いたがっているんだということだと思います。次回は、みんなが“みんなのため”に大勢集まって、語り合い楽しいひと時を過ごせたら最高です。
“One for all, All for One”

（ニニ会事務局：土屋隆雄　記）